

# 連携医院のご紹介

広島市安芸区のJR矢野駅近くで、開業後20年にわたり診療をしてられ、外来透析も手がけておられる、竹中クリニック 竹中 正治院長先生です。



竹中院長

## 医療法人社団 竹中クリニック

〒736-0085  
広島市安芸区矢野西4-1-21  
矢野MEDIX 4F  
電話/082-889-1001  
FAX/082-889-2525  
院長/竹中 正治  
診療科/外科・胃腸科・内科・肛門科・人工透析・リハビリテーション科



### ○いつ頃開業されましたか。

平成3年4月12日に開業しました。私は外科が専門ですが、開業医となってからは幅広く病気を診ているので、地域の患者さんの中には内科として受け止めている方も多くと思います。

### ○毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

患者さんの気持ちになって考えることですね。私自身が交通事故で入院した時に、患者さんの気持ちに気づかれました。まずは患者さんの悩みを聞くことから始めます。じっくりお話を聞くことで、やっと病気の症状を語られることもあるんです。

### ○地域医療について。

地域との関わりでは私自身往診をします。自宅での看取りのケアにも関わることがあります。介護保険の意見書などは、立場上、平素から患者さんの生活全体を把握していることが多いので開業医が書くのがよいと思っています。

### ○県病院について。

よく紹介を受け入れてもらっています。透析は腕の血管(シャント)がトラ

ブルを起こしやすいので、特に移植外科にはお世話になっています。また最近では医療にも盛んにコンピュータが取り入れられるようになり、治療歴が長い患者さんのデータが、診察をしながら画面を見て簡単に検索できるようになりました。情報をきちんと管理し、治療の向上にもなります。結果的には患者さんのためになるというPRをもっとされたいと思います。



### 【取材後記】

夜間の透析も行われ、ご多忙中、溪谷を歩き、滝の撮影をされるのがご趣味で、市医師会の会報に10年に渡って紀行文を連載しておられます。お話を伺いながら、本当に幅広く診療され、矢野の町に溶け込んだ開業医の先生であると実感しました。

# もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。  
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします



院長撮影

若くても注意!!

## 若年性心筋梗塞とは?



循環器内科部長 上田 浩徳

### ♡ 心筋梗塞とは?

心筋梗塞とは心臓に酸素を供給する冠状動脈が閉塞することにより、心臓の筋肉が壊死(組織が死滅すること)する病気です。冠状動脈の動脈硬化部位が破裂することで血栓(血のかたまり)が生じ、冠状動脈が閉塞するため発症します。その危険因子は高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、肥満、家族歴等があり、高齢になるに従い発症頻度は増加します。40歳未満の心筋梗塞発症は非常に稀で、一般的に若年性心筋梗塞と言われています。その発症頻度は男女合わせた全心筋梗塞発症の約5%で、さらにその数は男性に圧倒的に多く認められます。

### ♡ 男性の場合

若年男性で多数の危険因子を有している場合は冠状動脈の動脈硬化が急速に進み発症することがあり、生活習慣や食生活の欧米化によりその傾向が強まっていると思われます。

### ♡ 女性の場合

若年女性の場合は女性ホルモンであるエストロゲンの抗動脈硬化作用のため、冠状動脈の動脈硬化は進展しにくいと考えられます。そのため、膠原病、血栓が生じる副作用のある薬物療法、先天的に血栓を溶かす能力の低下している場合、血管内膜の自然解離(血管の壁が裂ける)、ストレスによる冠状動脈の攣縮(けいれん)等の特殊な要因の関与が報告されています。

### ♡ 普段から気をつけましょう

以上のように若年性心筋梗塞は食生活や生活習慣に気をつけることはもちろんのこと、発症した場合はその原因を明らかにし、再発予防をすることがとても重要です。



ストレスをためないように!

## 県立広島病院からのお知らせ

### 第2回 脳卒中診療もみじネット

**開催日** 平成25年7月3日(水)  
**時間** 19:00~20:30  
**場所** 中央棟2階 講堂  
**テーマ** 脳塞栓症に関わる最新  
**講師** 循環器内科 平尾 秀和  
脳神経外科 溝上 達也  
脳神経内科 仲 博満  
**対象** 脳卒中に携わる医療従事者の皆様  
**主催** 脳神経内科・脳神経外科・TVaCチーム・地域連携センター  
**問合せ先** 地域連携センター  
TEL:082-252-6241

### 平成25年度 緩和ケア・ターミナルケアヘルパー・介護員研修

**開催日** 平成25年8月29日(木)・9月4日(水)の2日間  
**時間** 9:00~16:30  
**場所** 新東棟2階 総合研修室  
**申込期間** 平成25年7月25日(木)~8月8日(木)必着  
**参加費** 3,000円(資料代)  
**対象** 次の①、②の要件を満たす者  
①県内の介護保険指定事業所、介護保険施設に所属している介護福祉士及び2級以上のヘルパー、介護員  
②全課程(2日間)を全て出席できる者  
**問合せ先** 緩和ケア支援室(緩和ケア専門研修 担当)  
※詳細はホームページでご確認下さい。  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/muki-muki1.html>

### 外来診療のご案内

**診療受付時間**  
午前8時30分~午前11時00分  
※午後の診療は科によって異なります。

**休診日**  
土曜日・日曜日・祝祭日  
年末年始(12月29日~1月3日)

### 紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費の他2,620円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ち下さい。  
※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承下さい。

## KBネット

現在の参加医療機関は

**84** 機関です。  
(6月14日現在)

問合せ先 地域連携センター  
電話(082)252-6228(直通)

# 毎日 リハビリテーション科!?

当院では、昨年5月からリハビリテーションに土曜日を加えた6日体制を実施しておりましたが、今年6月から日曜日も開始しました。脳卒中や交通事故の入院患者さんたちのリハビリテーションをする機会を増やして、早期の回復と退院につなげます。



リハビリテーション科スタッフ

## ★ リハビリテーション科とは

当院のリハビリテーション科は、医師2名、理学療法士13名、作業療法士6名、言語聴覚士2名、診療補助2名の多職種で構成されています。さまざまな疾病・外傷によって急性期のリハビリテーションが必要になった患者さんに医師を中心にリハビリテーションを施行し、機能回復、社会復帰のお手伝いをさせていただいております。

## ★ 土・日のリハビリについて

土曜日と日曜日には理学療法士2名と作業療法士1名がフルタイムで勤務しております。対象となるのは、発症や手術日から14日以内の入院患者さんを中心に病棟へ出向き、ベッド脇で関節を動かしたり、病棟でトイレの練習や廊下で歩行訓練などを行っています。

## ★ リハビリテーション科が目指すもの

リハビリと聞くと、運動や歩行訓練などの機能回復訓練と捉えがちですが、単なる機能回復ではなく「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしく生きること」が重要であり、そのために行われる全ての取り組みがリハビリテーションなのです。

当院に入院された患者さんは、やがて自宅へ戻れます。施設へ行かれる方もいらっしゃるでしょう。我々は、院内や地域の医療従事者等と連携を取りつつ、入院中の方を対象に早期から、運動、言語能力の改善や生活行為の回復に取り組んでいます。病気やケガをされた方が、再び生きる意味を見出して、地域に戻ることができるように支援しています。



主任部長 井上博幸



理学療法

病気やケガなどで身体の機能が低下した方に対し、主に起き上がる、座る、立つ、歩くなどの基本的動作を中心にアプローチします。



仕事、遊び、日常生活などさまざまな「作業」を通して、心と身体を元気にしていきます。



言語聴覚療法

脳血管障害等で、コミュニケーションに問題を生じた方の評価・指導・訓練を行っています。



作業療法

# 外科医の 独り言 no.22

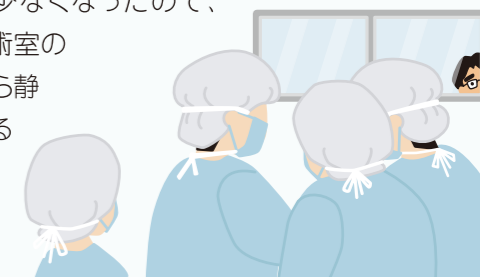
## — ひとり立ち —

どんな職業でも、仕事を任せられる“一人前”になるためには相当な時間が必要です。また自分が一人前になったような気持ちでいても、実は上司は一人前と認めていないこともあります。私が外科医になった頃、一人前の外科医になるのは最低10年かかると言われていました。どんな手術ができるようになったら、あるいはどんな外科医が一人前なのか、いまだによくわかりませんが、とにかく上司が一人前と認めれば手術を任せられ、後輩を従えての手術になります。いわゆる“ひとり立ち”をするわけですが、認められなければ上司が指導医として一緒に手術に入ります。私自身は30歳代中頃には、ある意味で一人前、ひとり立ちしていると勝手に思っていました。難易度の高い手術では当然の如く上司が指導医として手術に入ります。上司が、自信のない手術に入ってくると非常に安心感があり、手術前夜もぐっすり眠れます。しかし、時にはああではない、こうではないと手術中に言われると、声を出して言えませんが「うるさいなあ、わかるとわい」と心の中で叫んだこともあり。一番有り難いのは、手術に入らなくていいから、柱の陰からそっと見守るとか、ご自分の部屋に待機して頂いて、困った時に手術に入ってくれば、と都合の良いことを考えていました。しかし、これではいつまで立っても真の“ひとり立ち”ができないのです。

そして42歳の時、ついに真の“ひとり立ち”の瞬間が思わぬ形で来たのです。手術の3週間前、難易度の高い手術を予定しました。これはやはり上司に立ち会ってもらおうと上司の部屋におもむき、その日の

スケジュールを確認しました。当時、上司は多忙で頻繁に出張していましたが、その日は空いているということで手術の予定を決めました。手術当日の朝、上司の姿が見えないので秘書に確認したところ、なんと前日から東京出張で不在であることが判明、それも随分前から決まっていた。この時全身の血の気が引く思いをしたことを今でもよく覚えています。不幸中の幸いは、この事実を手術当日に知ったこと、前日にわかっていれば夜寝られなかったかもしれません。ここで手術を延期するわけにもいかず、もうなるようにしかならんと腹をくくり(患者さんには大変申し訳なかったのですが)手術を決行しました。手術は10時間ぐらしかかりましたが、無事終わった瞬間、真の“ひとり立ち”を実感しました。それ以降、55歳になった現在まで、これほど緊張した手術は経験していません。半年くらい前にその上司と食事をする機会があり、この話をしました。案の定、上司は全く覚えてなく、まあそんなもんだらうと思いましたが、そこで上司は一言「今のお前の部下はみんな、うるさいのう、わかるとわいと心の中で叫んどるよ」確かに、因果応報、歴史は繰り返す、朝あることは晩にある。最近東京出張は少なくなったので、

せめて手術室の柱の陰から静かに見守ることにします。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長) 板本敏行(いたもと としゆき)

## 病棟編

### 看護部だより

### 東6病棟

東6病棟は、移植外科・腎臓内科・臨床腫瘍科・放射線治療科の編成で生まれ変わり、5月の引越しを終えて本格稼働を開始しました。腎臓疾患患者さんの透析療法・腎臓移植等と、がんの診断・治療・副作用や痛みの緩和等を行う病棟です。

腎臓疾患患者さんへのQOL向上を目指し、昨年度11例の腎臓移植が行われました。専門的知識と研究結果を活かした術前後の管理・苦痛を和らげる援助を行った結果、患者さんは笑顔で退院され、地域・外来・腎センターとの連携により、安心して日常生活を送っていただけます。臨床腫瘍科・放射線治療科は、がんの総合的な医療の提供を目的に、今年度、再編成されました。複数の診療科医師・認定看護師・医療ソーシャルワーカー・薬剤師・管理栄養士等の多職種で連携し、安全で質の高い医療が提供できるよう、常に新しい知識と技術の向上に取り組んでいます。



明るく元気でチームワークが良いのが自慢です!



会議風景